

2010 連合徳島



校舎サポートチーム

第 10 期生報告集

講座の開催にあたって

連合徳島ボランティア・サポートチーム

養成講座運営委員会 運営委員長 藤本 恭士

第10回ボランティア・サポートチーム養成講座は、昨年5月22日から11月13日の間、講義や実践体験など全7講座を開催し、多くの防災知識の習得と救急救命等の技術の向上を図ることができました。休日開催にもかかわらず、熱心にご参加くださいました54名の受講生の皆様や運営にご尽力いただきました連合徳島及び関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

近年、世界各地で大地震などの大規模自然災害が発生し、日本においても今年の3月11日に東北地方（M9.0）で発生した大地震・大津波により多くの尊い命と財産が失われました。

私たちの住む徳島県も決して例外ではなく、南海地震は30年以内に60%以上の確立で発生する可能性もあるとされています。そして、この地震は、M8.4規模を想定する研究者も多く、この場合、県南部では震度5～6の揺れと、10分以内に津波が襲うことが予想されています。

自然災害をコントロールすることは今の科学では不可能だと思いますが、大規模災害が発生した場合に万全に備え、被害を少なくすることは可能です。

私たち連合徳島ボランティア・サポートチームは、今後、発生が予想される地震等の大規模自然災害に対して、自分自身や家族を守ることとはもとより、地域や職場等において公的な組織や被災者の方々と連携し、避難や救出・救命などの災害救助活動に従事することで、被害の軽減と拡大防止をはかることを目指して取り組んでいきたいと思っています。そのためにも、さらなる知識と技術の向上をめざし一人でも多くの方に「第11回ボランティア・サポートチーム養成講座」にご参加いただきますようお願いいたします。

ー 2010 ボランティア・サポートチーム養成講座参加者ー

赤松 邦博	宇野亜由子	金子眞由美	篠原 正勝	長尾 雅史	傅 麗
浅井 信治	浦本 健治	川越 敏良	庄野 昌彦	中川 智史	峰行 一夫
旭 トモ子	遠藤 悠	木本 正	杉本 章	中野 修次	森本 佳広
泉 香織	圓藤由香利	国見 聖	多田 和代	中山 まき	八木由利子
井出 典子	大寺 禮子	倉敷 泰子	多田 嘉文	西 克己	山下 健一
犬伏 雄人	大原由香里	後藤 和昭	谷口 光春	西内 正勝	吉田 勝司
井内 佳代	岡川真紀子	小林 克典	谷脇日出正	原崎 健児	吉田 耕造
井元 浩二	岡村 昌典	斉藤 博之	田村 健二	板東喜代子	小松 義明
岩見 洋	小倉 涼子	佐古 英仁	都築 宣也	藤本 恭士	加村 祐志

大規模自然災害、連合徳島の果たす役割

兵庫県南部地震、鳥取県西部地震など、改めて自然の恐ろしさを痛感させる災害が発生しています。

そしてこの一連の地震は、次の南海地震の前触れに相当する内陸地震であり、20年以内に南海地震が発生する可能性もあるとされています。

そして、この南海地震はM8.4規模を想定する研究者も多く、この場合、県南部では震度5～6の揺れが予想され、その上、10分以内に津波が襲う。とされています。

こうした状況をふまえ、徳島県に大規模災害発生した場合を想定する場合、連合徳島の果たす役割は、何か。

※ 構成組織の事業所内の自然災害発生時に備えて取り組むべきマニュアルの提示。

※ 自治体への政策制度要求。

※ 連合徳島自らがおこなう防災対策とボランティア活動の推進。

などがあげられます。

特に、3点目の連合徳島自らがおこなう防災対策とボランティア活動を推進するために、緊急時における連合徳島災害対策本部を設置し、ボランティア救援隊を組織する必要があります。

災害対策本部は連合会長を対策本部長とし、ボランティアの受け入れや組合員の安否確認、情報の収集・提供、など各地協・構成組織と連携しながら、救援センターとしての役割を持つ必要があります。

ボランティア救援隊は、そのリーダーとなるべき人を養成するため、組合員を中心に広く市民から募集し、ボランティア・サポートチームとして日常的に実践的な教育訓練をおこなう必要があります。

連合徳島ボランティア・サポートチーム運営要綱

趣旨

連合徳島ボランティア・サポートチームは、今後発生が予想される、大規模自然災害に対して連合徳島構成組織、連合徳島各地域協議会、行政と連携し災害救助活動に従事することで、被害の軽減と拡大防止をはかることにあります。

また、国内で発生する大規模災害に際しても、一定の条件が整う場合は、連合徳島の派遣決定により、連合徳島ボランティア・サポートチームを派遣します。

上記の災害救援活動を効率的におこなうために、参加者に教育訓練をおこないます。

名称

「連合徳島ボランティア・サポートチーム」とします。

登録

参加登録を希望する方は、連合徳島に登録されます。

脱退

次の場合は登録を取り消します。

- ① 本人の希望により取り消すとき
- ② 対象者の条件に合わなくなったとき

派遣

徳島における災害発生時のサポートチームの派遣は、連合徳島災害対策本部の設置と同時に派遣出動体制を確立します。

国内で発生する大規模災害に際しても、一定の条件が整う場合は、連合徳島の派遣決定により、派遣要請がおこなわれます。

活動

サポートチームの活動内容は、教育訓練により会得した対応能力に応じた支援活動とします。

徳島における災害時の活動は、支援ボランティアの受け入れや調整、各種の生活支援活動とします。

国内での災害時の活動は、地方連合会や行政と連携し、支援をおこなうこととします。

教育・訓練

登録メンバーは、知識と技術向上のため、別に定めるカリキュラムに従い教育・訓練をけることとします。

保険

登録メンバーは、「ボランティア保険」に加入することとします。

事務局

連合徳島ボランティア・サポートチームの事務局は次の場所に設置します。

〒770-0942

徳島市昭和町3丁目35-1 徳島県労働福祉会館内

日本労働組合総連合会徳島連合会

Tel 088-655-4105 FAX 088-655-4113

E-MAIL

info@tokushima.jtuc-rengo.jp

2010ボランティア・サポートチーム養成講座

	開催予定日		講座内容	講師等	場所
1	5月22日	(土)	開講式・オリエンテーリング、 一般救命講習(心肺蘇生法、自動体外式除細動器・AED、止血法等)	徳島市東消防署	徳島市東消防署 656-1195
2	6月12日	(土)	実践体験講習Ⅰ(災害について) 救急法・担架搬送・ロープワーク等	徳島市東消防署	徳島市東消防署 656-1195
3	7月24日	(土)	「連合の森」下草刈り作業	県林務職員等	美馬市木屋平 中尾山「連合の森」
4	7月31日 ～8月1日	(土) (日)	野外活動 森林教室・木工教室・植林等 「連合の森」親子サマーキャンプ	森林労連等	美馬市木屋平 中尾山「平成荘」
5	9月11日	(土)	食に知っ得講座 「気をつけてますか？毎日の食事、食料自給率と日本型食生活について」	徳島農政事務所	とくしま県民活動プラザ 664-8211
6	11月7日	(日)	身体障害者授産施設 「眉山園」体育祭、障害者介助等	眉山園職員等	加茂名南小学校グラウンド
7	11月13日	(土)	講演「迫り来る南海地震に備えて」 総括討論・修了式	県防災センター 次長 小村 正 連合徳島会長 小松 義明	県職員会館視聴覚室 621-3254

2010ボランティア・サポートチーム養成講座報告

5月22日（土）

開講式・第1講座は、徳島市東消防署で開催し、35人が参加。連合徳島・小松会長から養成講座の意義と激励を受けた後、一般救命講習（心肺蘇生法、AED等）を受けた。東消防署係員から救命についての説明後、訓練用の人形を使っての人工呼吸・蘇生訓練をした。また、AED（自動体外式除細動器）の使用についてもわかりやすく指導を受けた。講習終了後、参加者に徳島市東消防署から「普通救命講習修了証」が交付された。



6月12日（土）

第2講座－実践体験講習Ⅰ（災害について）

徳島市東消防署救助隊員の指導のもと26人が参加。日常生活でも利用でき、役立つ三角巾を使っての止血法やロープワークを訓練。もやい結び、巻き結びなどロープに惑わされるも、多くの隊員の親切な指導と仲間同士で教え合いながら何とか体得。毛布を使った担架搬送訓練や、負傷している人を搬送する救助法などを学習した。





7月24日（土）

第3講座「連合の森」下草刈り作業

「連合の森」親子サマーキャンプ（7／31～8／1）の植林前に、実施した下草刈り作業に25人が参加した。2006年から地元美馬市の協力のもと、「連合の森」を新たに中尾山に開設し、4年間でコナラ140本と栃の木50本を家族・グループ毎に植林してきた場所を自分たちで下草刈りやゴミの回収、鹿対策の防護ネットの修理事業を県林務職員や森林労連の指導のもと実施した。参加者は、汗ビッシヨリになりながらも自分たちが植林した木の成長を確認するとともに、今回新たに植林する場所を手入れするため、カマを手に下草などを刈った。



7月31日（土）～8月1日（日）

第4講座「連合の森」サポート

地球にやさしい労働運動をめざした「連合の森」親子サマーキャンプが、7月31日（土）～8月1日（日）美馬市木屋平の中尾山・平成荘で開催し、103人（大人68人・子供35人）が参加した。

12時30分からの開会行事を体育館で行い、連合徳島・小松会長の主催者あいさつの後、地元美馬市木屋平総合支所・藤本支所長、徳島森林管理署・三谷署長からあいさつを受けた。

昼のイベント1として「森林教室」を実施。徳島森林管理署の職員から「私たちを取り巻く森林」について、プロジェクターを使ってわかりやすく説明を受けた。続いて、昼のイベント2として木工工作教室（写真・ペン立て）、昼のイベント3として間伐体験（15

人限定）を実施。木工工作教室は大人気で、杉の間伐材にどんぐりや木の枝などをボンドで付けたり、自分の名前や絵を描いたりと親子で熱中し、それぞれオリジナルな写真・ペン立てを完成させた。また、川上国有林で行われた「間伐体験」は徳島森林管理署・林野

労組の指導のもと杉にノコギリを入れ「バッキィバッキィ」と音をたて目標どおりの方向に倒れると大きな歓声が沸いた。

17時からの夕食バーベキューは、9班に分かれて炭を熾し、昼間に心地よい汗をかいたこともあり、子供たちの食欲も旺盛で肉・野菜・ウインナー・おにぎり・すいか等を食べて、大人達もビールを飲みながら交流を深めた。お楽しみ抽選会（スピードくじ）もみんな大喜びだった。

翌日は、朝食後に2006年に美馬市の協力のもとできた「連合の森」へ車で移動。植林の仕方について説明を受けた後、これまで植林してきた木の成長を確認、防護ネッ



トの修繕を行った。その後、県職林務職員、森林管理署職員の指導のもと、家族・グループ毎に50本の苗木(コナラ)を植林するとともに、今年も鹿対策の防護ネットを取り付け、大きく成長することを願って名札を埋め込んだ。

2日間とも好天に恵まれ、森林管理署・林野労組、県職林務職員をはじめ、多くの皆さんと地元美馬市のご協力をいただき、標高1,050mのすばらしい環境のもとサマーキャンプを無事終了することができた。

最後に、今回のキャンプにカンパ等頂きました各構成組織・団体に心より感謝を申し上げます。



9月11日(土)

第5講座は、とくしま県民活動プラザで開催し、23人が参加した。養成講座としては、昨年に続いて2回目の講座内容となった「食と農の知っ得講座」を徳島農政事務所の担当職員の方から「食料自給率と日本型食生活」と「気をつけていますか?毎日の食事～徳

島県版食事バランスガイド」について、プロジェクターを使って詳しく説明を受けた。まず、「食料自給率と日本型食生活」については、○「品目別食料自給率」と「総合食料自給率」○国内生産の現状○日本型食生活○食事バランスガイド○小麦粉に変わる米粉利用の可能性○農村の6次産業化、のメニューでクイズ問題

も入れてわかりやすく話された。続いて、「気をつけていますか?毎日の食事～徳島県版



食事バランスガイド」では、○食生活を取り巻く状況○食事バランスガイド○食事バランスガイドの使い方○とくしま食事バランスガイド、について説明を受けた。日本人の3大死因（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）である生活習慣病の増加には、食事の洋風化が大きく影響していることや一日に何をどれだけ食べたべたらよいのかの目安、自分の適量をチェックする方法等について、学習を深めた。

11月7日（日）

第6講座は、身体障害者授産施設「眉山園」の第25回体育祭にはじめて参加し、障害者の介助等を行った。連合徳島ボランティア・サポートチームとして39人（家族含む）が他の協賛団体と一緒に加茂名南小学校グラウンドでの体育祭にボランティアとして参加、眉山園からグラウンドまでの引率、会場設営、各競技での役割（連絡調整係、用具係、決勝係など）、撤去作業等を朝8時30分から16時まで行った。

各競技（ウルトラクイズ、綱引き、対抗リレー）にも障害者といっしょに参加し、十分交流をはかることができた。また、グラウンド横で全農林労組の方々が、「ぱっとライス」をつくっていただき、障害者や子どもたちに無料で配付し、大好評をいただいた。

最後に、三橋一巳・眉山園長から「連合徳島ボランティア・サポートチームの皆さんのご協力で、事故も無く体育祭を終了することができた。心から感謝いたします」とお礼のあいさつを受けた。





11月13日（土）

第7講座・修了式は、県職員会館視聴覚室で開催し、30人が参加した。第7講座は、県立防災センター次長・小村正さんから「今世紀にも起こるといわれている南海地震に備えて」と題して講演を受けた。

小村さんは、①地震被害②南海地震の概要③地震から命を守る④地震災害時の職場対策⑤災害時のボランティア活動、について写真や映像をプロジェクター使ってわかりやすく説明された。南海地震は、過去歴史的に繰り返し発生し、本県に甚大な被害をもたらしている。また、今世紀前半にも発生することが懸念されている次の南海地震は、今後30年以内の発生確立が60%と予測されており、本県では震度5強から6強の強い揺れが想定されている。そのためにも、今から家の耐震化や家具等の転倒防止、避難場所や避難経路の確認、非常用備蓄品・持出品の準備など、できることから始めることが重要だと話された。また、阪神・淡路大地震の教訓から、地域のきずなが命を守ることから自主防災活動への参加が大切だと訴えられた。

修了式では、小松会長から修了証書（7講座中4講座以上出席）が手渡され、第10期の養成講座についての総括・反省点等、第11期に向けた意見交換を行った。



第10期連合徳島ボランティア・サポートチームの記録
〒770-0942

徳島市昭和町3丁目35-1 徳島県労働福祉会館6F

日本労働組合総連合会徳島連合会

t e l 0 8 8 - 6 5 5 - 4 1 0 5

f a x 0 8 8 - 6 5 5 - 4 1 1 3

e-mail info@tokushima.jtuc-rengo.jp

<http://tokushima.jtuc-rengo.jp/>